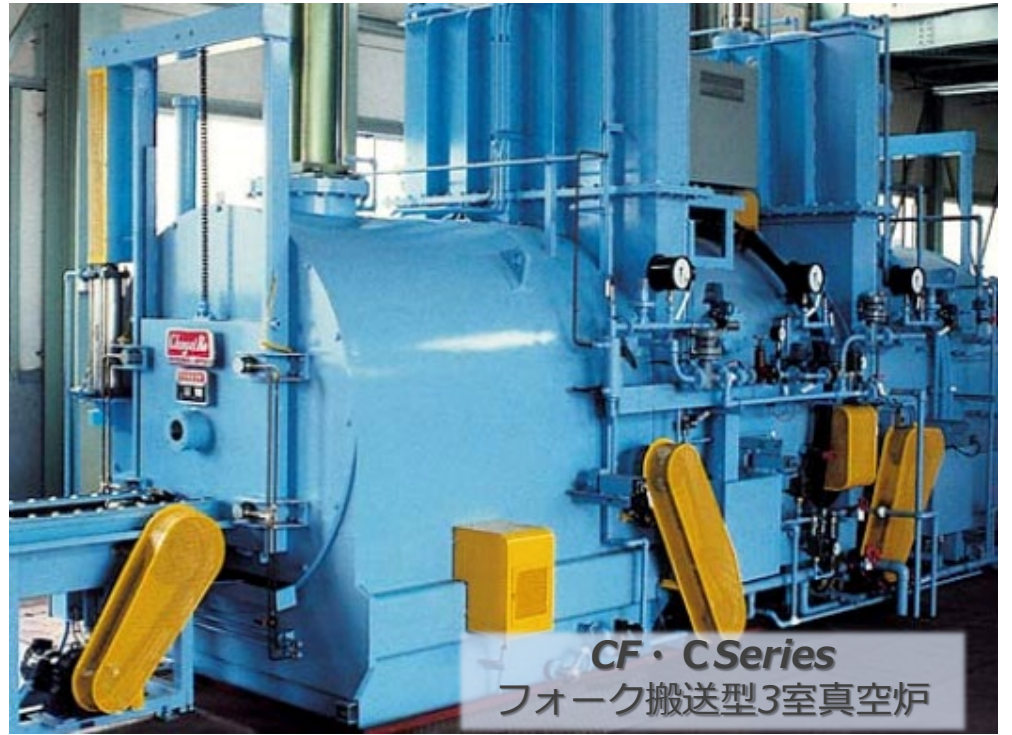




中外炉工業の 多室型真空炉

RH Series
ローラーハース型連続真空炉



CF・C Series
フォーク搬送型3室真空炉

<多室型真空炉 | 3つの特長>

01

| 高い生産能力

最大3倍の生産量

02

| 優れた環境性能

消費電力、排出CO2
最大30%削減

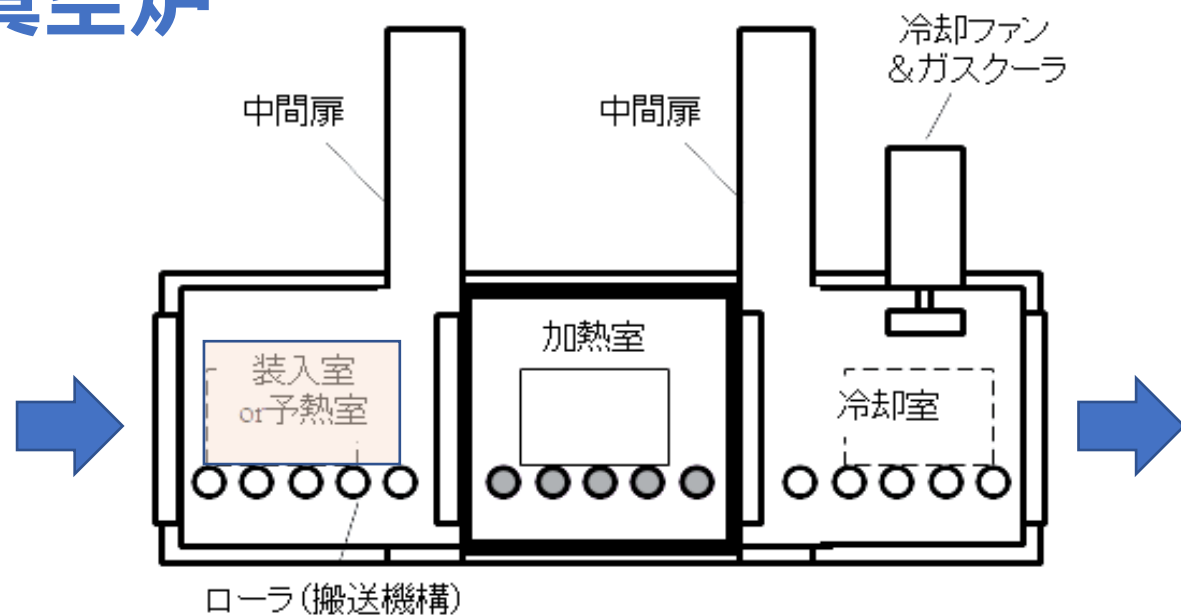
03

| 省人化へ貢献

部品寿命が約3倍
→メンテ頻度が減少

00 ラインナップ

RH Series 多室型ガス冷却真空炉



4室以上にも対応可能な連続炉

用途：ダイス鋼やハイス鋼、ステンレスの焼入
ろう付、脱脂焼結

- ・連続炉の持つ高い生産能力を保有。
- ・操業パターンに合わせた最適な処理室の組合せを提供（ハースローラ搬送のため4室以上可）

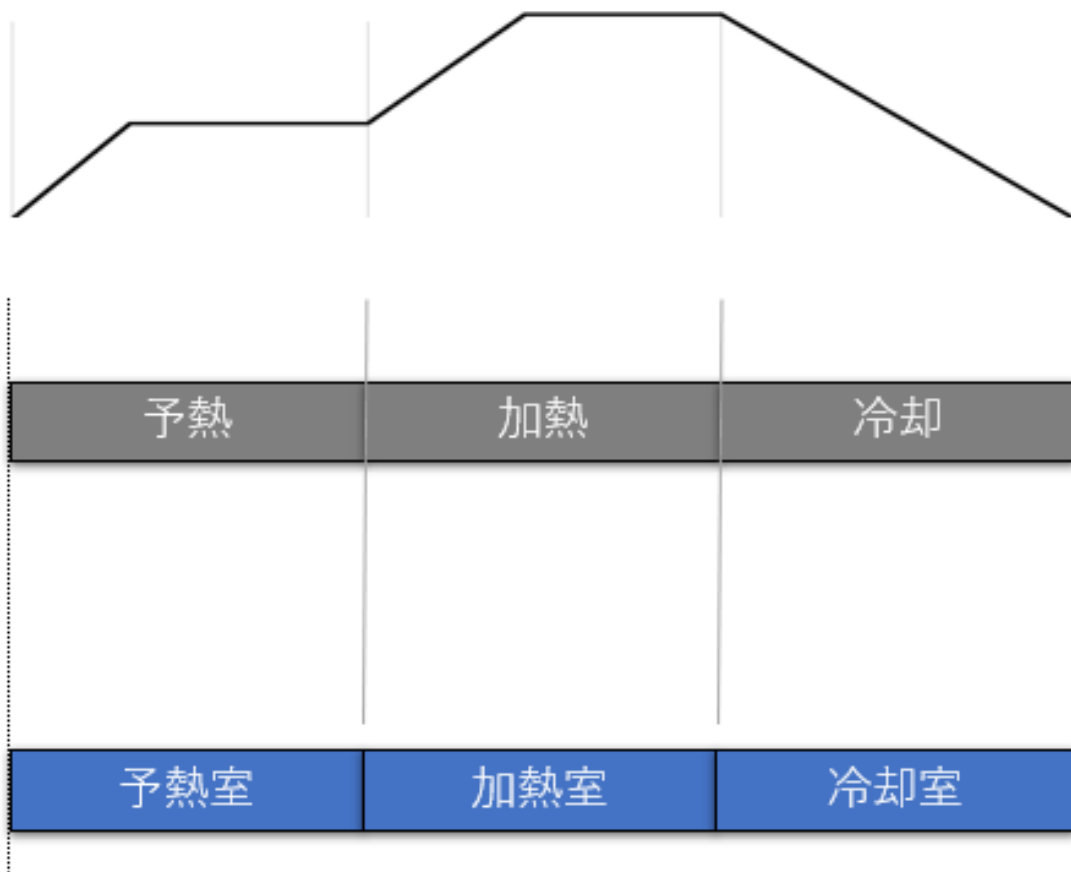
サイズ(一例)

型式	有効寸法	処理量
RH27	500W×800L×500H	Gross 400kg/charge
RH40	610W×920L×610H	Gross 520kg/charge
RH特	910W×1400L×760H	Gross 1000kg/charge

*³大型サイズ (Gross 1500kg/charge) の実績もございます

01 高い生産能力

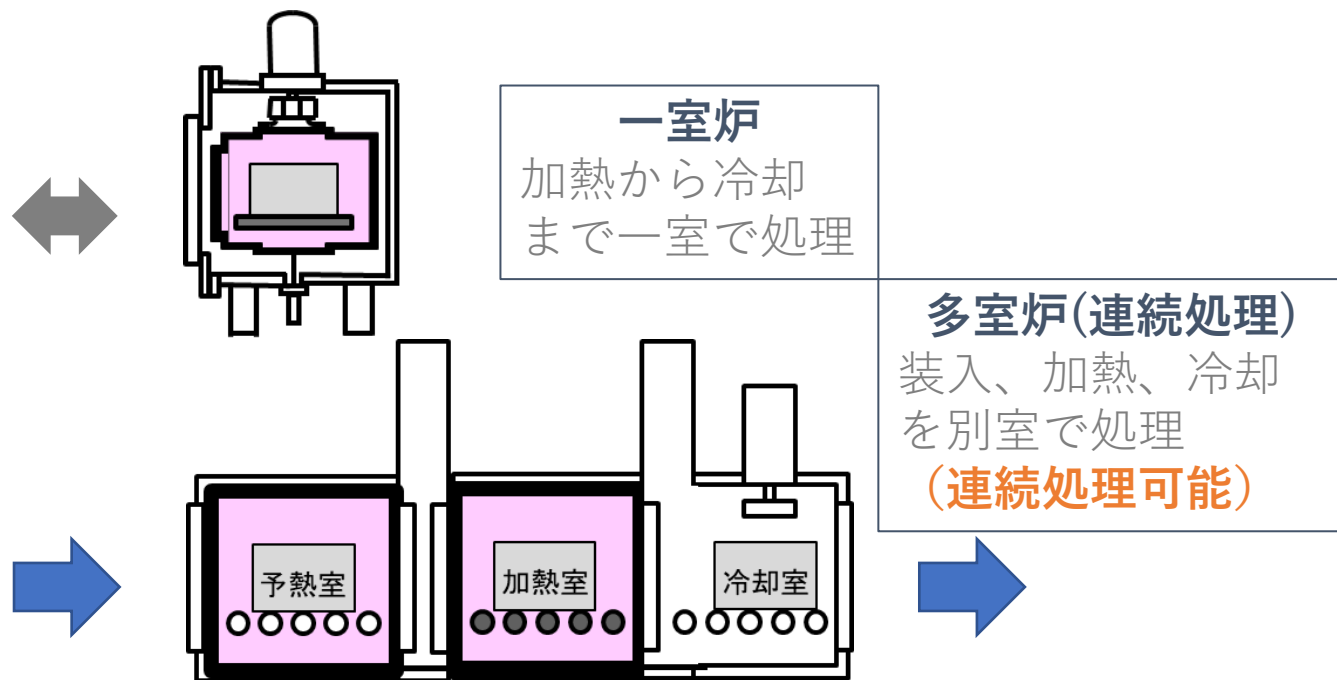
予熱、加熱、冷却の各工程を
分担することで、生産能力向上
(標準的なヒートサイクル)



▶ 一室炉比較で**最大3倍※**の生産量

※ 予熱、加熱、冷却の時間が同じ場合

一室炉であれば、材料抽出迄待たないと次材処理できないが、多室炉であれば、部屋を移動することで、連続的に処理が可能

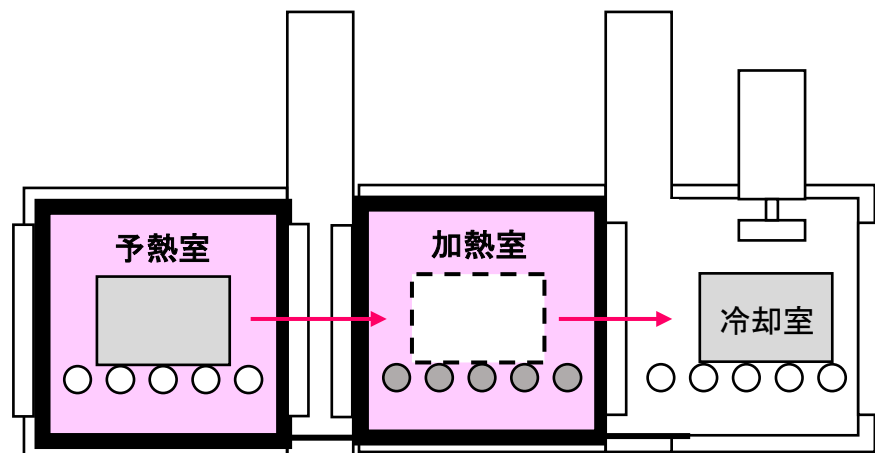


02 優れた環境性能

加熱室から処理品搬送後、
加熱室の温度を保ったまま
次処理品を投入

▶ 一室炉比較で電力使用量及び
CO2排出量を**最大30%※削減**

※ ヒートパターンや炉型式により異なります。



一室炉の場合、処理毎に炉を常温迄下げる必要があるが
多室炉の場合、炉内の温度を保ったまま、
次の材料を受け入れるので、炉内材料を再加熱しなくても
良い。

その他の省エネポイント

ポイント① 冷却室は専用室でコンパクトで、ガス消費量削減

ポイント② 冷却時間が短く、ファン運転の為の電力量も削減

03省人化へ貢献

多室炉の加熱室は外気から遮断されており、
また急昇温・急冷されない

▶ 一室炉比較で**部品寿命が約3倍※**
このため、維持管理が容易になり、
工場の省人化にも貢献
※ ご使用条件により異なります。

項目	一室炉	多室炉	備考
ヒータエレメントの交換	～2年	～10年	多室炉は加熱室が外気と遮断されているためヒータが酸化消耗し難く、一室炉に比べて長寿命。
断熱材の交換・補修	～5年	～10年	同上。また一室炉は強制冷却による風食で断熱材が損耗するが、多室炉にはそれがない。
インナーチャンバーの更新	～5年	～10年	多室炉のチャンバーは急昇温・急冷されないため傷み難い。使い方によっては30年もつこともある。

04 まとめ

<多室型真空炉のニーズ>

1. 現在一室型のバッチ炉をお持ちで生産性の向上を図りたい

→ (予熱)、加熱、冷却を別室で処理することでサイクルタイムが短縮でき、時間当たりの生産量を増やすことができる。

2. ランニングコストを低減したい

→ 材料装入のため加熱室を常温まで下げる必要がなく、この分の燃料消費が削減できる。(CO2排出量の抑制につながる。)

3. 炉のメンテナンス頻度を下げたい

→ 加熱室は常時外気と遮断されており、ヒータや断熱材等消耗品の寿命が長く、部品購入コスト、停炉の頻度が削減できる。